

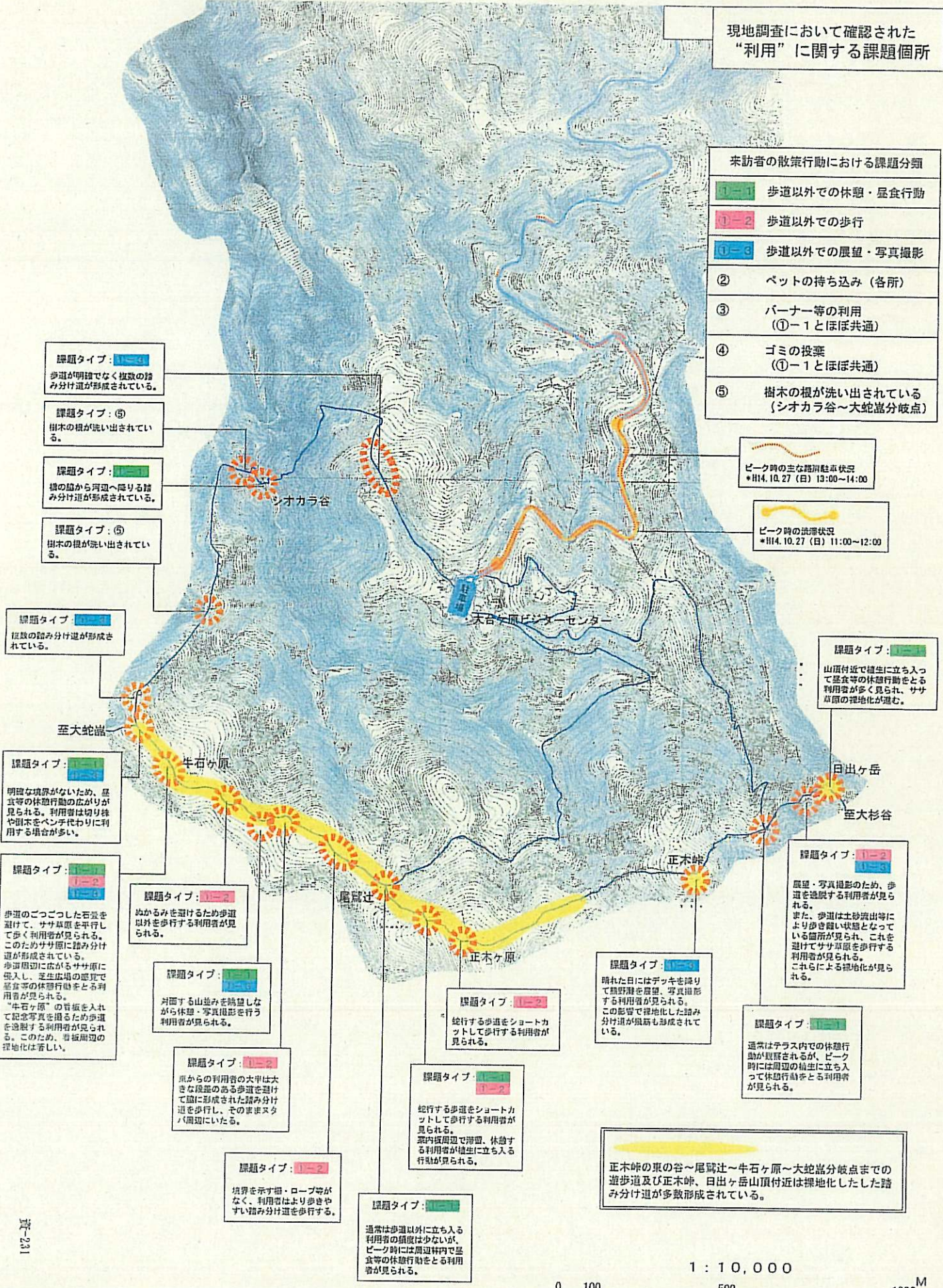
現地調査において確認された
“利用”に関する課題箇所

来訪者の散策行動における課題分類

①-1	歩道以外での休憩・昼食行動
①-2	歩道以外での歩行
①-3	歩道以外での展望・写真撮影
②	ペットの持ち込み(各所)
③	パーナー等の利用 (①-1とほぼ共通)
④	ゴミの投棄 (①-1とほぼ共通)
⑤	樹木の根が洗い出されている (シオカラ谷～大蛇峠分岐点)

ピーク時の主な観測駐車状況
*H14.10.27(日) 13:00~14:00

ピーク時の渋滞状況
*H14.10.27(日) 11:00~12:00



課題タイプ: ①-3
歩道が明確でなく複数の踏み分け道が形成されている。

課題タイプ: ⑤
樹木の根が洗い出されている。

課題タイプ: ①-1
橋の脇から河辺へ降りる踏み分け道が形成されている。

課題タイプ: ⑤
樹木の根が洗い出されている。

課題タイプ: ①-3
複数の踏み分け道が形成されている。

課題タイプ: ①-1
山頂付近で植生に立ち入って昼食等の休憩行動をとる利用者が多く見られ、ササ草原の裸地化が進む。

課題タイプ: ①-1
明確な境界がないため、昼食等の休憩行動の広がりが見られる。利用者は切り株や倒木をベンチ代わりに利用する機会が多い。

課題タイプ: ①-1, ①-2, ①-3
歩道のごつごつした石畳を避けて、ササ草原を平行して歩く利用者が見られる。このためササ原に踏み分け道が形成されている。歩道周辺に広がるササ原に侵入し、芝生広場の感覚で昼食等の休憩行動をとる利用者が見られる。“牛石ヶ原”の看板を入れて記念写真を撮るため歩道を逸脱する利用者が見られる。このため、看板周辺の裸地化が著しい。

課題タイプ: ①-2
ぬかるみを避けるため歩道以外を歩行する利用者が見られる。

課題タイプ: ①-2
対面する山並みを眺望しながら休憩・写真撮影を行う利用者が見られる。

課題タイプ: ①-2
車からの利用者の大半は大きな履音のある歩道を選挙て踏みに形成された踏み分け道を歩行し、そのままスタバ(周辺)にいたる。

課題タイプ: ①-2
境界を示す柵・ロープ等がなく、利用者はより歩きやすい踏み分け道を歩行する。

課題タイプ: ①-2
独行する歩道をショートカットして歩行する利用者が見られる。

課題タイプ: ①-1, ①-2
独行する歩道をショートカットして歩行する利用者が見られる。案内板周辺で滞留、休憩する利用者が植生に立ち入る行動が見られる。

課題タイプ: ①-1
通常は歩道以外に立ち入る利用者の頻度は少ないが、ピーク時には周辺林内で昼食等の休憩行動をとる利用者が見られる。

課題タイプ: ①-3
晴れた日にはデッキを降りて憩野瀬を展望、写真撮影する利用者が見られる。この影響で裸地化した踏み分け道が風筋も形成されている。

課題タイプ: ①-1, ①-2, ①-3
展望・写真撮影のため、歩道を逸脱する利用者が見られる。また、歩道は土砂流出等により歩道離れ状態となっている箇所が見られ、これを避けてササ草原を歩行する利用者が見られる。これらによる裸地化が見られる。

課題タイプ: ①-1
通常はテラス内での休憩行動が観察されるが、ピーク時には周辺の植生に立ち入って休憩行動をとる利用者が見られる。

正木峠の東の谷～尾鷲辻～牛石ヶ原～大蛇峠分岐点までの遊歩道及び正木峠、日ヶ岳山頂付近は裸地化した踏み分け道が多数形成されている。

